

(食事直前に口腔をうがいし、測定した pH 試験紙による pH)

(6) 尿中窒素の量

(入居者(イグルー内)テント内生活者の窒素量を平常量と比較した)

(7) 体重の変化

(実験開始後体重を1日2回測り、変化がどの位たつてあらはれるか、男女差をみた)

4 考察

5 結

\* 23 雪中露營生活時における食餌の身体に及ぼす影響について

群馬大学 木村 菊子

1 序 実験対象及び実験方法

昭和 31, 32, 33 と実施して来たが、33年3月は疲労度、体重の他にイグルー入居者の尿中の排泄窒素量を測定してみた。

2 環境

実験によって出た数字は必ずしも食餌のみの影響ではなく、環境衛生の影響もあるので、参考として、イグルー内CO<sub>2</sub>量と温度、湿度を出した。

3 研究報告

(1) 栄養素摂取量の目標

(種々の事情により昨年(32年)は同一食にしたが、33年は3段階にわけた)

(2) 実際の摂取量 1958年

(3) 同 上 1957年

(4) 食餌献立及び分量・材料

(5) 疲労度